









平和共存社会を育む ひろしまイニシアティブ拠点

中山間地域・島しょ部対策領域地域連携から地方創生へ

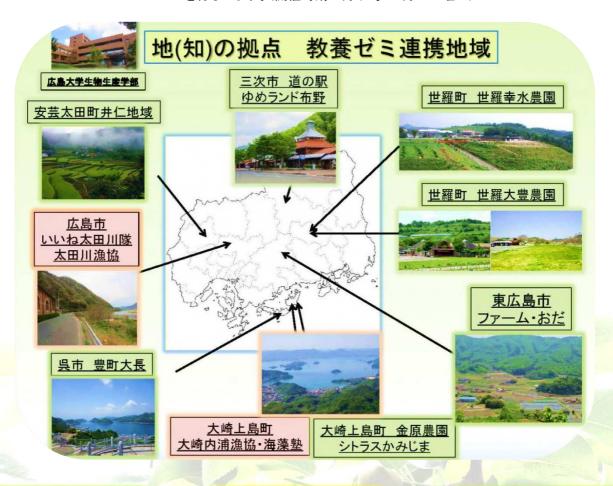
広島大学 生物生産学部

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業主な取り組み実績(平成26年度)

広島大学生物生産学部では、広島県内の7市町・9地域との強い連携を構築し、教養ゼミ体験学習、体験学習発表会、連携特別講座、インターンシップ、地域連携活動、調査研究活動などに取り組んでいます。地域の皆様の意欲的な現場指導と教育研究プログラムによって、「地(知)の拠点」の活動が、地域に学び地域に役立つ人材の育成、地域貢献、地方創生の仕組みとして、大きく役立ちはじめています。

教養ゼミの体験学習

体験学習は、教養ゼミごとに異なる地域にお伺いし、各地の特色を生かした活動を行ないます。(開催時期:5月下旬~6月の土曜日)



安芸太田町井仁地域

日本の棚田百選に選ばれた地域で、農村環境の厳しさと豊かさに触れる





呉市豊町大長

大長みかん発祥の地で、産地の 抱える課題や生産者の新たな取組 みへの思いを知る



大崎上島町シトラスかみじま・ 金原農園

高級かんきつ「せとか」栽培に 取組む、挑戦的柑橘経営者の姿 勢を学ぶ



大崎上島町 食文化海藻塾·大崎内浦漁協

観光漁業や文化活動を体験し、地域を盛り上げる人々の考えや熱意を知る



マダイ養殖の 見学

大串海岸で海藻採集

世羅町世羅幸水農園

地域の家族ぐるみで法人経営する農園で、梨の栽培管理と地域と共存する農園経営を学ぶ



幸水農園の 説明



世羅町世羅大豊農園

梨やぶどうの栽培管理をおこない、 高品質でおいしい果樹を生産するため の地道な作業を知る



病気や害虫 被害の説明

ぶどうの巻き つる切り作業



三次市道の駅ゆめランド布野

地域農業と都市・農村交流の活性 化拠点で、中山間地域に位置する 道の駅の役割を理解する





東広島市ファーム・おだ

地域ぐるみで6次産業化に取組む 農事組合法人で、農作業体験を通じ て農業への関心を高める



広島市 いいね太田川隊・太田川漁協

太田川支流「吉山川」で、河川漁場の保全作業と生態観察を通じて、水産資源の管理や水環境保全の知識を高める



ヨシの収集・搬出作業



体験授業発表会

(開催時期:7月中旬)

教養ゼミの地域体験学習や連携特別講座、地域や市町の方との交流連携を基に、各ゼミの学生が地域への思いや提案をまとめ、プレゼンテーションを行いました。

体験授業発表会には、連携地域・市町の方々もご参加いただきました。地域の方からは、生物生産学部がおこなう「地(知)の拠点」の活動が、地域志向の人材育成につながってきていると評価していただきました。





中山間地域・島しょ部連携特別講座(7講座)

(開催時期:4~6月)

「中山間地域・島しょ部連携特別講座」では、中山間地域・島 しょ部で活躍されている方々を講師としてお招きし、オムニバ ス形式の講義をおこなっています。学生が、地域や生産現場 への理解を深めることを目的としています。

平成26年度の地域講師

- ・呉市役所豊市民センター豊支所 前田義信
- ・株式会社サタケアジア事業部 松本吉人
- ·広島県地域振興局中山間地域振興課 三島史雄
- · 農事組合法人世羅高原農場 吉宗五十鈴
- ・フルーツ夢工房MUKAISHIMA 半田史子
- ・おのベジ槇山農園 卯元幸江
- ・株式会社パティスリーオクモト 奥本隆三
- ・農事組合法人ファーム・おだ 吉弘昌昭 (敬称略・講義開催順)



秋の地域体験学習

(開催時期:10~11月)

秋の地域体験学習は、実施希望をいただいた「地(知)の拠点」連携地域で収穫体験などをおこなっています。参加者は生物生産学部の学生だけでなく、教育学部などの他学部、東南アジア等からの留学生も参加しました。今回は、地域の皆様との交流が一層深まるとともに、本事業が全学的な取り組みに発展するための準備が整ってきました。

安芸太田町 井仁地域 (棚田での収穫体験と地域交流)



河野会長による開会式と 本日の作業説明



刈取り作業の様子



はさかけ作業



芋掘り作業

大崎上島町 (FARM SUZUKI、大崎内浦漁協、食文化海藻塾)



鈴木代表の講義



カキ養殖の説明



海釣り公園にて 海ぶどう養殖の見学



海岸の海藻観察

呉市豊町大長 (大亀観光農園、末岡レモン園、JA広島ゆたか)



広島ゆたか農協・ 山根部長の講義



ミカンの共同選果場で 作業風景の見学



ミカン収穫の作業説明



レモン収穫作業

地域連携•地域貢献•地方創生活動

1. 「地(知)の拠点」における主要な地域貢献活動

◇せらマルシェ・地(知)の拠点コラボ企画 「世羅の日本ーを探そう」 ー世羅高校×広島大学コラボワークショップー

◇広島県島しょ部柑橘地帯におけるツーリズム導入による地域再生の可能性を検討 ーツーリズムに活用可能な地域資源についての現地調査ー

◇広島県島しょ部の伝統文化「櫓祭り」参加による地域活性化支援 一広大学生の活動が地域を元気にする一

2. 学生による地域課題研究(平成26年度)

◇生月英吾

体験型グリーン・ツーリズムから見た都市の意識と農山村の取り組みのあり方

◇原田紀一

帝釈峡神龍湖の水質悪化の原因究明に関する研究

◇加藤愛

条件不利地域における体験型教育旅行民泊受入による効果と中間支援組織の在り方

◇細川富美子

「土壌診断に基づく適正施肥」の現状・課題と展望ーJAグループ広島の取組を事例としてー

3. 地域の方から大学に寄せられた提案にもとづく研究活動

平成25年度

「広島大学地域連携推進事業」プロジェクト 【プロジェクト名】

帝釈峡神龍湖の水質悪化原因の究明と 改善材適用による改善

プロジェクト代表者: 生物圏科学研究科 教授 山本 民次

地域提案テーマ:国定公園帝釈峡神龍湖における、 水質改善に関する研究

提案者:神石高原町まちづくり推進課未来戦略室





近年、国定公園帝釈峡神龍湖の水質悪化が深刻な問題になっています。植物プランクトンの大量発生による透明度の低下や、それによって引き起こされる悪臭は、観光地にとって不都合なものであり、環境を適切に保全・維持する必要があります。

本研究は、帝釈峡の長期水質データの解析と実態調査に加え、数値生態系モデルを作成して、物質循環を定量的に明らかにし、植物プランクトン発生による富栄養化の原因を究明しました。

平成26年度

「広島大学地域連携推進事業」プロジェクト 【プロジェクト名】

緑黄色野菜わけぎの有効成分の分析と 紫化現象発生要因の解明および軽減策の検討

プロジェクト代表者:生物圏科学研究科

准教授 **長岡俊徳** 教授 **実岡寛文** 講師 上田晃弘

地域提案テーマ : 向島産わけぎの特性解明について 提案者: JA尾道市わけぎ部会





わけぎは、尾道市などで古くから生産されており、地域で 馴染の深い緑黄色野菜のひとつです。近年、産地では作付け面積や生産量が減少しています。また、晩生わけぎの紫 化が、市場において商品価値を下げる原因となっています。 本研究は、わけぎの有効成分や紫化発生機構を明らかに し、わけぎの高付加価値化と安定多収を目指した栽培技術 の開発をおこなっています。

「地(知)の拠点」 円卓フォーラム

円卓フォーラムのテーマと趣旨

生物生産学部は、2014年12月11日、広島大学学士会館にて、「中山間地域・島しょ部と広島大学―広島県の農水産業の将来を見据えた交流と連携―」をテーマにフォーラムを開催しました。

フォーラムでは、これまでの活動をふまえて地域・組織・市町・広島県、学生、大学が、広島大学と市町・地域との将来を見据えた交流・連携について意見を交わし、今後の「地(知)の拠点」と中山間地域・島しょ部の連携のあり方を共有しました。参加者と大学は、「地(知)の拠点」にもとづく大学教育の進め方、協同で取り組むべき地域農林水産業の課題、大学を媒介にした地域間連携と交流のシステムづくりなどを話し合い、大きな成果になりました。

フォーラムの参加者

フォーラムには、地域体験に参加した生物生産学部1年生104人、受入地域7か所から12人、関係自治体(県庁含む)14人、その他自治体3か所から5人、他大学8人、一般等(報道含む)4人、ティーチング・アシスタント及び教務補佐員11人、本学教職員20人、合計178人が参加しました。

第1部

第1部では、「学生と地域とのエール交換」と題して、体験学習をおこなった学生と、受入地域の皆さまとの間で、相互に意見や提言・苦言を交換し合い、今後の地域志向型教育のあり方を考えました。

開会挨拶



体験学習の 経過報告



受入地域からの 発言



感謝状の贈呈

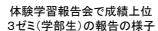
生物生産学部長 植松一眞教授の開会挨拶





司会の加藤さん窟 (博士課程前期2年生)と 経過報告する三木さん電 (博士課程前期1年生)

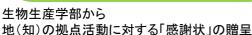
受入地域からの発言











第2部

第2部は、「広島県の地(知)の拠点 円卓フォーラム」とし、受入地域・自治体・大学による交流と連携の成果をより深く討論し、「地の拠点」に基づく教育の進め方、協同で取り組むべき地域農林水産業の課題、大学を媒介にした地域間連携と交流のシステムづくりなどを話しあいました。

「円卓フォーラム」の 趣旨とテーマの説明



体験学習についての アンケート調査結果の紹介



地域からの活動評価と 広島大学への期待



共同宣言



まとめと閉会挨拶

山尾政博教授の趣旨説明





矢野泉准教授の アンケート調査 結果報告

参加者全員が共同宣言に賛同





地域の方との意見交換

円卓フォーラム共同宣言 【地域連携から地方創生へ】

一地域社会の連携による地方の次代を担う若手リーダーの育成一

- 1. 広島大学は、中山間地域・島しょ部とともにあり続け、現場主義に基づいた、地域志向型の教育研究活動に努めます。
- 2. 中山間地域・島しょ部は、広島大学の地域に根差した教育研究活動を支援し、地域の視点、農林水産業の活性化の視点から、提案を行います。
- 3. 地方行政は、中山間地域・島しょ部と大学との交流連携を、地域振興の有効な手段の一つとして位置づけ、これを支援します。
- 4. 中山間地域・島しょ部、地方行政、広島大学の三者は、このような活動を通じて、次代を担う若い世代にエールを送ります。



フォーラムのまとめと閉会の挨拶

広島大学生物生産学部 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業概要

中山間地域・島しょ部対策領域について

広島大学は、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」のもと、「平和共存社会を育むひろしまイニシアティブ拠点」をテーマに活動しています。この中で生物生産学部は、広島県の重要な地域課題である「中山間地域・島しょ部対策」に取り組んでいます。

広島県は、瀬戸内海島しょ部や中山間地域の過疎化・高齢化が進む地域(条件不利地域)で、活力低下という問題に直面しています。県内では、積極的にこの課題に対応しており、条件不利地域対策の先進地域となっています。広島大学は、自治体および地域社会と連携し、地域を志向した教育・研究・社会貢献をおこなっています。本事業では、広島大学が県内の他大学と連携を組み、中山間地域・島しょ部の自治体が取組む地方活性化策に積極的に参画することで、大学を含めた地域社会全体で地方創生の拠点形成をめざしています。

生物生産学部の学部教育との連携について

生物生産学部では、広島県内の7市町・9地域で先進的取り組みをおこなう地域社会・地方自治体等と連携し、体験学習、連携特別講座、インターンシップを設置しています。大学と地域が課題を共有し、地域を志向する学生の養成と中山間地域・島しょ部の現場で起こる問題解決にむけて取り組みます。

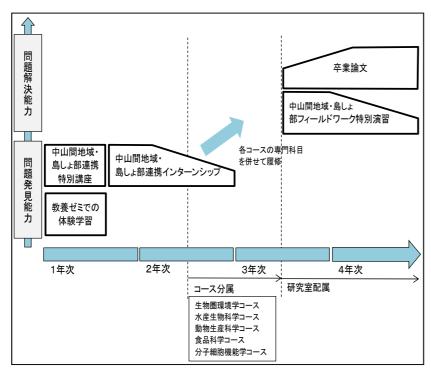


図 生物生産学部の学部教育と「地(知)の拠点」主要プログラム

ステップ1「地域を知る」

- ・1年生全員が教養ゼミで体験学習に参加 (1年次前期・必須科目)
- ・<u>連携特別講座</u>は、地域で活躍する人物から地域づくりや6次産業化について直接話を聞く (1年次前期以降・選択科目)

ステップ2 「地域と関わる」

・<u>連携インターンシップ</u>は、地域の農林漁業や6 次産業の現場で就業体験をおこなう (1年次後期以降・選択科目)

ステップ3 「地域と協働する」

- ・<u>フィールドワーク特別演習</u>は、学生の問題意識の下で聞取り調査を行い、レポートで報告 (3年次後期以降・選択科目)
- ・<u>卒業論文</u>は、各研究室に所属して地域課題解決と地方創生にむけた研究に取組む (3年次後期以降・必須科目)

お問い合わせ先

広島大学 生物圏科学研究科 地域連携室



739-8528 東広島市鏡山1-4-4 TEL 082-424-7905 FAX 082-424-2037 mail chinokyo@hiroshima-u.ac.jp

全活動の詳しい内容はホームページをご覧ください。 http://www.hiroshima-u.ac.jp/seisei/coc/ http://hirodaicoc.hiroshima-u.ac.jp/chiikitaisaku/